



みんなのできる 地球温暖化防止活動

— 環境出前教室で、講師を務めています!! —

福島県地球温暖化防止活動推進センター

事務局長 鈴木和隆

(特定非営利活動法人うつくしまNPOネットワーク)

■令和元年台風19号の記憶

郡山中央工業団地の会社に勤めているうつくしま地球温暖化防止活動推進員の小野容子さんは、4年前のことを今でもはっきりと記憶していると言います。

「2019年10月でした。12日の夜から13日にかけて台風19号が福島県などを直撃しました。阿武隈川とその支流の谷田川が氾濫し、この二つの川に挟まれた工業団地が2メートル前後冠水しました。」小野さんが勤務している会社は、過去の経験から嵩上げていたので、工場の被害は軽微でした。しかし社員食堂が水没し、多くの社員の自宅も被害を受けました。

■推進員になったきっかけ

規模の大きな工場は、化学物質排出把握管理促進法（PRTIR制度等）が適用されます。化学物質管理について専門家から指導を受けていた時に「会社の中で環境活動をするなら、うつくしま地球温暖化防止活動

※マークは県の地球環境保全のキャラクターです

推進員になってみたらどうでしょう」と紹介されたのがきっかけでした。「推進員になったのは2019年頃です。会社は積極的に小中学生の社会科見学を受け入れています。」小野さんは環境教室を担当し、地球温暖化防止や生態系の保全の大切さを伝えていきます。

■環境出前教室で講師を務めています

小野さんは、見学者に説明する資料作りを工夫しています。「楽しく学べるようにクイズ形式で話しかけたり、イラストや写真が入ったカードなどを用意しています。」環境省のCOOL CHOICE（学習コンテツ）には、資料作りに役立つ図表があり、ダウンロードして使用することができます。「見学に来る小中学生は、事前にたくさんのことを勉強しているようです。大人でも難しい内容の質問もあります。教えることは、自分の学びにもなっています。」この時の学びが、社外の環境出前講座の講師を務める時や社内環境リーダーの育成などに役立つと、納得顔です。

■みんなのできる地球温暖化防止活動

家庭では、エコバッグを使用する、食品などの無駄を出さないように注意する、シャワーの出しっぱなし、テレビや蛍光灯のつけっぱなしはしないなど、家計にやさしい生活をしているそうです。

(Web) <http://fukushima-ondankaboushi.org/>